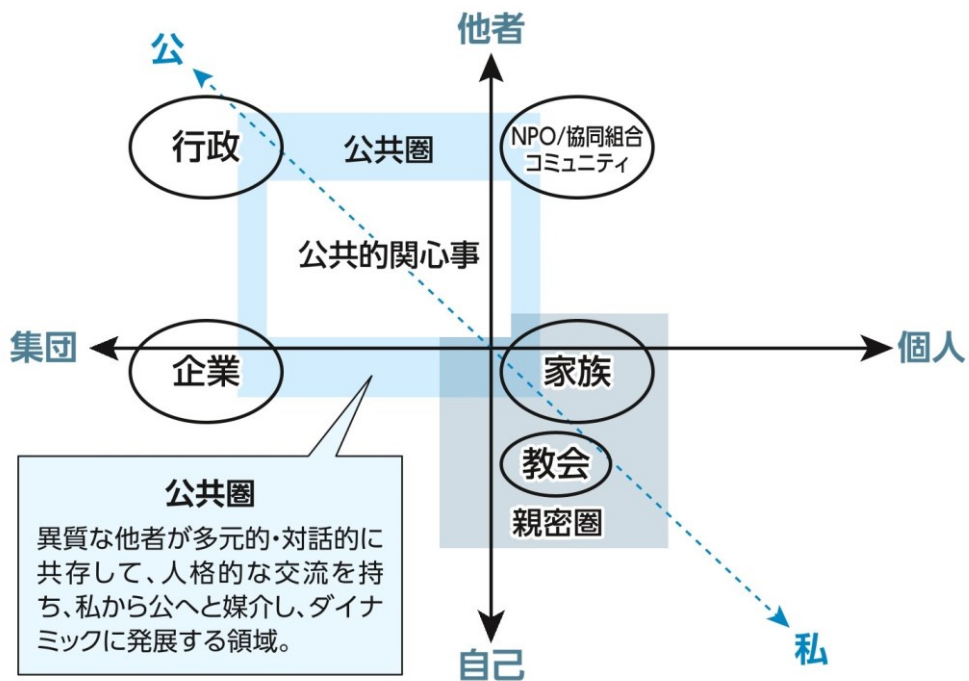


# 公共神学入門 (note 連載10回) から

稲垣久和

1



2

## 公共神学の目的

- 地上に神の平和と愛を告げ知らせ、それが日本人の「国民幸福度」をも増すのだという信念を公共圏(キリスト者でない人と共生)で共有すること。非キリスト者へのコミュニケーションと翻訳を考える。
- 個人の救済神学(信仰義認)以外に公共神学という考え方が必要→**聖書が奇妙な使われ方をしている時代だからこそ。**
- 聖書全体の豊かなメッセージは、イエス・キリストは贖い主であると同時に創造者なる神でもあることを告げている(共通恩恵論)

3

## 「原罪」の現代的解釈

- 20世紀前半の科学、国家権力、資本主義。そして1945年の「核エネルギー解放」の「罪と悪」。「罪」は哲学ではなく神学のテーマ。
- 「善悪を知る木から食べるな、食べると必ず死ぬから」(創世記2:17)の解釈
- 解釈学が重要。ガダマー(地平融合)、リクール(ナラティヴ)
- ヒロシマ、ナガサキ、フクシマ →日本思想の「和魂洋才」を克服できない。

4

## 日本における公共神学

- 公共神学は宣教学と同様に「文脈」に依存する。
- 日本は近代文明の「光」と共に「影」を直接に被ったこと。
- ヒロシマ、ナガサキ、フクシマの根本にある「人類の罪と悪」を明らかにして、キリストの恵みによる平和と隣人愛の世界モデルを通して神の栄光を現す。

### Doing theology

5

## 公共圏への翻訳が必要

### 神学は親密圏の言説

- 「平和を創り出す」使命
- 欧米キリスト教文明は終焉した  
→例、E・トッド「西洋の敗北」
- 諸科学と神学との関係 →階層性の違い、四世界論
- 科学、社会心理、歴史、経済、倫理、福祉、教育、政治など諸分野に携わる**信徒の参加**が必要

6

# 西欧キリスト教と近代化

## 17世紀キリスト教が重要

- F・ベーコンは誤解されている(科学)  
→ 墮罪からの部分的回復  
<https://note.com/jcec/n/n4646ee9eec82>
- T・ホブズは誤解されている(国家権力)  
→ 万人の万人に対する戦争  
<https://note.com/jcec/n/n79835c01f107>
- M・ウエーバーは誤解されている(資本主義)  
<https://note.com/jcec/n/n035d21dcb0f5>
- マンデヴィル(私悪すなわち公益)とA・スミス

7

# 臨界地平に達した人類文明

- ベーコン的な宗教的動因
- 創造—墮罪—贖罪(回復)—終末
- 墮罪の状態からの回復であるが被造物としての限界があって無限に進歩するのではなく、臨界地平(critical horizon)に達する
- 公共圏での人々の経験は**気候変動にしろ、核の危機にしろ、極端な格差社会にしろ**、すべて人間が「罪と悪」の中にいる、という自覚がない限り、解決は不可能

8

## 緩和ケア社会に向けて

- 二つのケア命令
- 「地を管理せよ」(スチュワードシップ)(創世記1:28)
- 「行ってあなたも同じようにせよ」(ルカ10:37)
- 親密圏での終末論の公共圏への**翻訳**
- 地の管理と核の廃絶  
<https://note.com/jcec/n/na17df5b50f2c>
- 原子カムの存在 <https://note.com/jcec/n/n28ff99ffa73d>
- 隣人愛の実践 <https://president.jp/articles/-/96804?page=1>

9

## 日本国憲法と公共神学

- 国民の三つの意味→①主権者(最終的決定権を持つ)②有権者(権力を持つ)  
②個人(個人として尊重される)
- 「そもそも国政は国民の厳粛な信託(sacred trust)によるものであって、その**権威**は国民①(の総意)に由来し、その**権力**は国民②の代表者がこれを行行使し、その福利は国民③(個々人)がこれを享受する。」
- 委託者=国民の総意=天、受託者=為政者、受益者=国民個々人。
- 日本国民の「総意」(一般意志)に基づく憲法はルソーの「一般意志」(general will)からきているわけであるが、これは歴史的にキリスト教の「神の意志の言い換え」(拙著『改憲問題とキリスト教』教文館、113頁)であり、日本国憲法はキリスト教**公共神学の共通恩恵論**による三者(天、国民、為政者)の信託理論と理解できる。

10